

Youth Manna

マルコ1:35
さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/2/13(月)

創世記17:15-27

15-19vまでをゆっくり読もう。
●神様から「男の子を与える(16v)」と言われた時、アブラハムはどのように反応したかな？17v
()
●なぜアブラハムは笑ったと思う？代わりにイシュマエルを推したことから想像してみよう。
()
●普通に考えてこれは無理だろうな、と思うことはあるかな？神様のみこころだったとしてもやっぱり無理だろうか。
()

2023/2/14(火)

創世記18:1-15

●神様が三人の人としてアブラハムに現れたとき、アブラハムはどのように彼らをもてなしたかな？この箇所から、神様の臨在を歓迎する、もてなすということについてどのようなことを教えられるだろう？
●神様がアブラハムとサラに語った約束とは何だろう。それに対するサラの反応はどうだったかな？
●アブラハムは100歳、サラは90歳になっていた。だけど神様は「主にとって不可能なことがあるだろうか」と言われる。君はみことばや神様から語られたことをどのように受け取っているだろうか？聖霊によってみことばへの確信が与えられるように祈ろう！

2023/2/15(水)

創世記18:16-33

アブラハムのところにきた三人（主と二人の御使い）は、ソドムの方を見下ろし、これからしようとしていることを告げた。ソドムとゴモラについて、御前に届いた叫びどうりかかどうかを確かめ、そうであれば滅ぼし尽くすという計画である。三人はソドムの方に進んでいったが、アブラハムはまだ主の前に立っていた。そして彼は、ロトや町の中にいる人々の救いのために主と何度も交渉する。主は、哀れみによってアブラハムの訴えを聞いてくださった。
アブラハムは主の前に立ち、町のためにとりなした。私たちも弱さの中にある人のために、とりなして祈ろう！

2023/2/16(木)

創世記19:1-22

神様のあわれみを知ろう。
二人の御使いがソドムに着いた時、ロトは自分の家に迎えた。それを知ったソドムの男たち若い者から年寄りまでロトの家を取り囲み、二人をもてあそぶために差し出すように言った。ここだけでどれだけソドムの町が罪に満ちていたかが伺える。それに対して二人を守るためにロトは自分の娘二人を差し出すとした。この対応も正常な判断とは到底思えないだろう。
その後、御使たちが男たちの目を見えないようにしたのでロトは難を逃れることができたが、御使いたちは神様がソドムを滅ぼすことをロトに告げ、山に逃げるように言うが、ロトは近くの小さな町に、と願いで、その願いは聞かれた。
神様は正しい裁きを下さすが、そこにあわれみをもって対応して下さることが分かる。神様のみこころを知ろう。祈り求めよう！！

2023/2/17(金)

創世記19:23-38

●神様はソドムとゴモラを天からの火で滅ぼされた。ロトの妻は神様のことばを軽んじて振り返ってしまったため塩の柱になってしまったね。イエス様は終わりの日にも、同じことが起こると教えられたよ(ルカ17:26-32)。神様の御心に沿った歩みをするために、今何が自分に必要なことか考えてみよう！
●ロトの二人の娘は父親によって子孫を残そうとした。その子孫であるモアブ人とアンモン人はイスラエルに敵対するようになる人たちだよ。神様に聞かず、自分の知恵だけで困難を乗り越えようとするにはどんな危険があると思うかな？どんな時も神様に祈り求めることを優先していこう！

2023/2/18(土)

創世記20章

アブラハムは再び、サラを奥さんだということを隠して王様に渡してしまうという間違いをしてしまったね。私たちももうしないと思っている、同じ失敗をしてしまうことがあるんじゃないかな。
アブラハムは、その地の人々を恐れて、何も知らない王様にまで罪を犯させるところだった。だけど、神様は王様に直接語り、その国の人は結果として神様をおそれることになった。
神様は人の失敗さえもご自身の栄光へと変えることができる憐れみ深い方なんだ。私たちが自身が過ちから守られるように、そして恵みを感謝して受け取れるように祈ろう！

2023/2/19(日)

創世記21:1-21

イサクが与えられたアブラハムとサラは、人生の中で最高とも言える喜びを味わう。それは、これまでに味わった苦しみや葛藤を塗り替えるような喜びだった。
しかし、その喜びも長くは続かなかった。ハガルの子がイサクをからかっていたことを通して、アブラハムは苦しみ、サラは悲しんだ。
喜びであったことが苦しみに変わった。悲しむことが、私たちの人生にも多くある。しかし、そのことを通して主は私たち信仰者を成長させてくださるんだ。
今、自分が直面している問題や課題を通して、主はどのように成長させてくださるだろうか。
主がそのことにも、豊かに働いてくださることを期待し、祈ろう。